

技術チーム報告

室屋泰三（国立新美術館学芸課／国立美術館本部事務局 主任研究員）

平成21年度の「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は受講者のグループ分けを14グループとこれまでより大幅に増やして実施された。技術チームは例年通り、国立新美術館と東京国立近代美術館の5名のスタッフにより、ギャラリートーク、グループワーク、分科会、事例紹介、グループワーク発表のための50品目を超える機材の運用・操作・利用サポート、さらには講演やギャラリートークのビデオ撮影などの業務を行った。

グループワークとデジタル機器

今年度の研修のグループワークは、パソコン等をあまり使わず「ローテク」という前提があったが、実際にはデジタルカメラやパソコンを使っている記録はファシリテータや受講者にとって当然のことであり、第1日目に東京国立近代美術館の展示室で撮影した画像を、国立新美術館に会場を移した2日目以降、プロジェクターで大きく投影してディスカッションするグループが多く見られた（2日目のグループワーク開始直前に使用するパソコンの台数が急遽大幅に増えるというハプニングがあったが、技術チームでは、このような事態が起こることは予想しており、遅滞なく対応できた）。一方、昨年度にも見られたスタイルであるが、模造紙に付箋紙を貼りながら議論を進めているグループもあった。ある意味、「ローテク」であるが、発表の際にはこの模造紙をビデオカメラで撮影しながら講堂のスクリーンに投影するという事になった。

グループワーク発表について

グループワーク発表は当初、グループ数が増え

たことで発表時間が短くなったので、口頭発表程度を想定するということがあったが、ディスカッションが盛り上がり、プレゼンテーションにも力が入るのか、例年と同様にバリエーション豊かなスタイルでの発表が行われた。

発表の形態を大別すると、以下のような4つのスタイルであった。

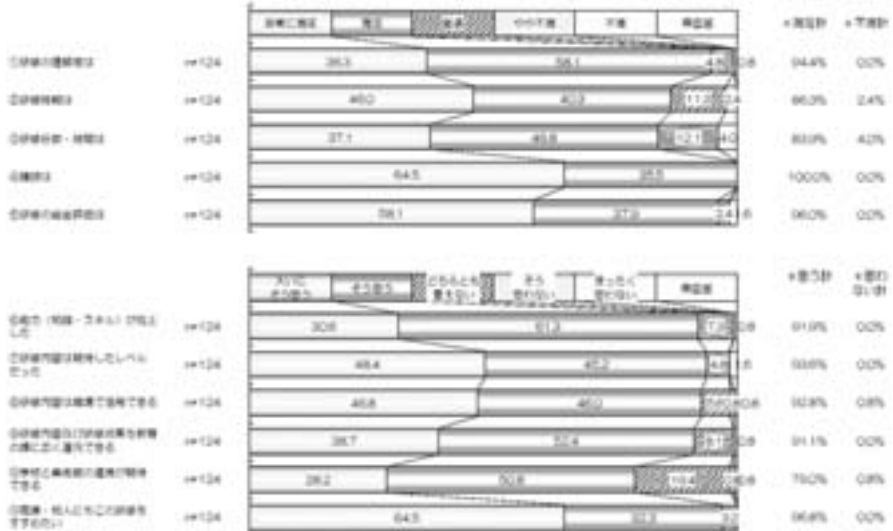
- ① 2台のPCで作品とグループワーク記録映像を並べて投影。（8グループ）
- ② ビデオカメラや書画カメラで制作物を撮影して投影。（3グループ）
- ③ WordやPowerPointで発表。（2グループ）
- ④ 映像などは使わず、作成した掲示物を掲げながら演技。（1グループ）

3日目の朝、約40分という非常に限られた時間の中で、14のグループから発表方法のヒアリング（1グループあたり2分間程度）を行った。さらに画像ファイルのパソコンへのコピー等の準備を行い、直前で発表機材の変更にも対応したが、実にタイトでハードで、スリリングな時間帯であった。

研修を裏側から支えて…

研修の数日前から機材の整理、第1日目夜の竹橋から六本木への機材移動、グループワークの機材設営、各グループからの印刷やデータコピー等のリクエストへの対応、そして最終日のグループワーク発表、機材撤収まで、受講者の皆さんの目にはあまり触れなかったかもしれないが、技術チーム5名は、今年も充実した活動を行ってもらうべく、研修の裏側や縁の下で活動した。

受講者アンケート (研修全体)



受講者感想 (抜粋)

小学校教諭

7月末なら

いろいろな研修と重なっていたので、研修の時期をもう少し早めて、7月末だとよいと思った。

特別支援の内容も

特別支援学校(学級)に応じた内容を設けていただきたい。

アートカードを活用したい

国立美術館のアートカードがとてもよかったです、活用したくなりました。

とても意義深い

小・中学校教員、学芸員、指導主事などいろいろな方が一堂に会した場はとても意義深いと思う。

地元で報告したい

地元美術館での鑑賞学習交流会で報告したい。

課題をもう少し詳しく

現場では時数、校内事情等の課題があることも事実である。そのようなケースの事例ももう少し詳しく聞きたかった。

「やるぞ」という気持ちになれた

パワー溢れる参加者のみなさん

から、たくさんのエネルギーをいただくことができた。子どもたちの顔が浮かんで来て、「やるぞ」という気持ちになれたのも嬉しかった。

少しずつ前に進めたら…

私にも「できそうなことがある」と思える機会となった。ただ、学力重視、多忙化する職場という現実の中、難しい問題もある。少しずつでも前に進めたらと思う。

多くの先生に参加を

これからもこの研修を続け、できるだけ多くの先生に参加できるものにしてほしいと思った。

美術館と積極的な連携を

自己課題が明確にもてたことや、いろいろな先生方と交流できたことが大きな成果。美術館との積極的な連携や相談を行っていると思う。(ハードルが低くなった)

子どもの気持ちになって

討議し、身体を動かしていくうちに、子どもの気持ちになって楽しんで学ぶことができた。

不安になることも

ワーク、アクティビティの方法

は、自分の考えを引き出してくれるが、何か忘れたことがあるのでは…と不安になることも少しある。

知的衝撃が糧に

ファシリテーターから受けた知的衝撃が、これから私の取り組み鑑賞教育の糧となっていくと思う。

水のサービス、弁当もよかった

余計なことながら重要かと…お水のサービス、お弁当の内容などもとてもよかったと思う。

つながり今後も続くよう

せっかくできたつながりが今後も続くような工夫があったらよいと思う。(自分自身でも努力したい。)

中学校教諭

動いて学びたい

2日半は充実している。座学よりも自分たちが動いて学びたい。

展覧会も見られると

初日の近代美術館を開館日にし、展覧会が見られる環境にしてほしいかった。

行政と学校と美術館

とても勉強になった3日間だが、

行政と学校と美術館の三者が意識を一つにして、何度も話し合いを重ねて初めて動き始めることかなと思う。

学校の授業例も

今回はギャラリートークに特化した内容で、学校での授業例があるとより参考になったのではないかと思う。

夢、わくわく感

何と言っても…夢、わくわく感が広がったことが一番だった。

自分で考え、動き、獲得

実際に自分で考え、動き、獲得できたものが、とても大きく、大変有意義な体験となった。

同業種のグループ活動ももっと

同業種のグループ活動をもっともっと取り入れていただきたい。

また参加できるよう

これで終わりではなく、また参加できるようなシステムにしたいだけと嬉しい。

多様なスタイルを肯定

多様なスタイルを肯定できる受容性をさまざまな面で感じた。鑑賞のよさを社会に広めていけたらいいと思った。

質疑応答で完結される

質疑応答があってはじめてプログラムの評価も含めて完結されると思うが、それがなくて残念。学校と美術館と手を結ぶことができれば、美術教育はかなり変わるだろうという予感十分感じた。

ぜひ受講を勧めたい

同じ地域の先生方にもぜひこの講座の受講を勧めたいと思う。

よく考え、対話できた

3日間で“鑑賞”教育について自分の考え方が大きく変化したと思う。研修がとても有意義だったし、参加した方々がそれぞれの場

面でよく活動し、考え、対話できたからだと思う。

表現と鑑賞をバランスよく

表現活動を充実させるためには、鑑賞教育の充実が不可欠だとわかった。2つの活動を深めるためには、それぞれをバランスよく行っていくことが大切なのだと思った。

生徒に還元したい

今回の研修で学んだことを、できる限り授業にそして生徒に還元していきたい。

考え続けていきたい

学校に帰り、“言葉では伝わらない感動”の表わし方を、今後とも考え続けていきたい。

今までとは違う角度から

全国の方々と交流したことによって、今までとは違う角度から鑑賞について考えていくことができた。

もう少し時間的な余裕を

それぞれのスケジュールが過密で、もう少し時間的な余裕（休憩なども）がほしかった。

エネルギーももらった

自分も何かしたい、という気持ちが強くなり、帰ってまた頑張ろうというエネルギーももらった。

ニーズにあった研修

本当に自分のニーズにあった研修だった。さまざまな課題をそれぞれの側面からとらえた研修内容で、広範囲にわたる、バランスのとれたものであったと思う。

美術館は強力なサポーター

研修を終えて、これまで遠い存在だと思っていた美術館が、思ったより近くにあって、学校教育の強力なサポーターであるということを知ることができた。

事前にビデオ・デジカメ OK を

事前にビデオ、デジカメの持参

OK を知らせていただけると有難い。

交流をこれからも

今回の縁を大切に、各地区の先生方、美術館との交流をこれからも続けていければと思う。

学芸員

東京だけでなく各地方で

とても中身の濃い研修だった。このような研修を、東京だけでなく、各地方で開催できるとよいと思う。

教育現場へのイメージ変わった

いろいろな立場の人から、正直な考えを聞いたのがよかった。今後につながるヒントをもらい、教育現場へのイメージが変わった。

新たな発見も

早く帰ってまずはトークを試してみたい。学校の先生と交流がもて、新たな発見もあった。

もう少し涼しい時期でも…

もう少し涼しい時期でもよいのではないかと思った。

これからも続けていきたい

他県との情報交換は、これからも続けていきたいと思う。

指導主事

充実感、満足感でいっぱい

盛りだくさんの内容で少々ハードな感じだったが、充実感、満足感でいっぱいになった。

撮影の電子音が耳障り

講演中、スクリーンをカメラで撮影するのは構わないと思うが、電子音がとても耳障りだった。

2日間に絞って

3日間より、2日間に絞られるとより参加しやすいと思う。

今後もぜひ継続を

学校現場への告知方法（パンフ、リーフ等）を工夫していただくと、さらに先生方の意識が高まるとともに、参加もふえるのではないかと今後もぜひ、継続して実施していただきたいと思う。

実施要項 (抜粋)

1 目 的

子どもたちの健やかな成長のためには、幼い頃から芸術・文化に触れることが重要であり、小・中学校においても、鑑賞教育は重要な教育活動とされている。このような鑑賞教育の重要性を踏まえ、全国の小・中学校等の教員と美術館の学芸員等が一堂に会してグループ討議等を行うことにより、美術館を活用した鑑賞教育の充実及び学校と美術館の一層の連携を図るため、本研修を実施する。

2 主 催 独立行政法人国立美術館

3 共 催 文部科学省

4 期 間 平成21年8月3日(月)～5日(水)

5 会 場 東京国立近代美術館、国立新美術館

6 受講者

受講対象者 ①小・中学校教員、②美術館学芸員、③指導主事

募集人数 ①小・中学校教員は各都道府県と各政令指定都市から1名
②美術館学芸員及び③指導主事は、各都道府県と各政令指定都市からいずれか1名

募集方法 各都道府県と各政令指定都市の教育委員会からの推薦に基づき、独立行政法人国立美術館が決定する。

※詳細は独立行政法人国立美術館ホームページをご覧ください。

<http://www.artmuseums.go.jp/>



研修をふりかえって

変化への対応と今後に向けて

司会・進行

一條 彰子（東京国立近代美術館企画課／国立美術館本部事務局 主任研究員）

◆3年間の変化

指導者研修のコンセプトは、平成17年に発足した「国立美術館の教育普及事業等に関する委員会」によって作られました。この委員会は、教員、研究者、行政担当者の約10名の委員からなるもので、ここに国立美術館5館の教育普及を担当する研究員ら職員が加わり、研修のあり方について反省や検討を毎年重ねています。委員と職員は、実際に研修に関わる講師やファシリテータでもあります。

平成20年度に行われた3回目の研修後の委員会で最も多かった感想は、受講者の変化についてのものでした。年々、鑑賞教育の実践経験のある受講者が増えていること。それに伴い各人の関心事が焦点化され、課題が具体化しつつあることが話題となりました。わずか3年の間のこの変化は、この研修自体が認知されてきたということよりむしろ、全国的に鑑賞教育の実践が増えたことによるものといえるでしょう。

◆今年度の改良点

受講者のレベルアップという変化に合わせ、今年度はグループワークを、少人数でテーマを絞って行えるようにしました。まず31ページに掲載したように、受講者の関心事について事前にアンケートをとりました。項目は、ギャラリートークなど



グループワーク1日目

美術館での鑑賞活動について、言語活動など学校教育方針に関わること、日本画など作品のジャンルについて、子どもの発達段階に関わることなどです。これに、ファシリテータの得意分野をマッチングして、グループ分けとテーマ設定を行ったのです。その結果、鑑賞教育をさまざまな角度から討議することができました。最終日に行われたグループワークの報告は、各グループわずか5分の持ち時間だったため、十分に伝わらない面もあったかもしれませんが、この記録集によってあらためて確認していただければ幸いです。

希望者が「教員免許更新講習」を兼ねることが出来るようになったのも、今年からです。研修終了後に該当者が修了試験を受け、無事14名全員が履修証明書を手にすることになりました。

これら改良点を加えたグループワークを核に、講演、ギャラリートーク見学、事例紹介、分科会が組み合わさった「美術館で過ごす3日間」が、今年度の研修でした。

◆今後に向けて

さて来年度、この研修が5回目を迎えると同時に、5年毎に事業計画を策定している国立美術館も見直しの年を迎えます。今後もこの形で研修を続けるかどうか検討するために、まずは500名を超えるこれまでの受講者全員に、アンケートにご協力いただきたいと考えています。この研修は果たして、当初の目的どおり、全国から関係者が集まることで鑑賞教育に関する互いの知見を深め、地域の学校と美術館の連携を進めるリーダーを育成することに貢献できたのでしょうか。全受講者アンケートの集計と分析は、来年度の研修報告書までお待ちいただきたいと思います。

教員免許状更新講習の実施について

平成 21 年度の指導者研修は教育職員免許法第 9 条の 3 の規定に基づき、教育職員免許状更新講習の認定を受け、開設時間数 選択領域 12 時間の講習として実施することとなった（講習の名称及び認定番号：美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修・平 21-70010-51027）。

免許状更新講習では、研修のプログラムに加え、自由記述式の筆記テスト（800～1200 字・試験時間 1 時間）を行い、14 名の受講生全員に履修証明書を交付した。また、講習の事後評価アンケートでは、「講習内容・方法についての総合的な評価」及び「講習の運営面についての評価」について「よい」が 78.6%、「だいたい良い」が 21.4%となり、「最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価」は「よい」が 85.7%、「だいたい良い」が 14.3%との結果となった。いずれも「あまり十分でない」「不十分」の評価は 0 名となった。

本研修は平成 22 年度についても免許状更新講習を実施する予定である。

※教員免許更新制については、文部科学省のホームページをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/

ファシリテータ、トーカー紹介

GW =グループワーク

GT =ギャラリートーク



山田一文
埼玉大学教育学部附属中学校 教諭

GW・Aグループ・ファシリテータ
GT・へ組・トーカー
中学校分科会・司会



小野範子
茅ヶ崎市教育委員会 指導主事

GW・Bグループ・ファシリテータ
中学校分科会・司会



藤吉祐子
国立国際美術館学芸課 研究員

GW・Cグループ・ファシリテータ
学芸員分科会・グループ司会



三澤一実
武蔵野美術大学 教授

GW・Dグループ・ファシリテータ
GT・ほ組・トーカー
小学校分科会・司会



齊藤佳代
東京国立近代美術館工芸課 研究補佐員

GW・Eグループ・ファシリテータ
学芸員分科会・サポート



藁谷祐子
国立西洋美術館学芸課 研究補佐員

GW・Eグループ・ファシリテータ
学芸員分科会・記録



相田隆司
東京学芸大学 准教授

GW・Fグループ・ファシリテータ
中学校分科会・記録



豊田直香
京都国立近代美術館学芸課 研究補佐員

GW・Fグループ・ファシリテータ
学芸員分科会・サポート



寺島洋子
国立西洋美術館学芸課 主任研究員

GW・Gグループ・ファシリテータ
GT・に組・トーカー
学芸員分科会・グループ司会



今井陽子
東京国立近代美術館工芸課 主任研究員

GW・Hグループ・ファシリテータ
学芸員分科会・グループ司会



三上美和
東京国立近代美術館工芸課 客員研究員

GW・Hグループ・ファシリテータ
学芸員分科会・サポート



西村德行
筑波大学附属小学校 教諭

GW・Iグループ・ファシリテータ
GT・い組・トーカー
小学校分科会・司会



小池研二
横浜国立大学 准教授

GW・Jグループ・ファシリテータ



弘中智子
板橋区立美術館 学芸員

GW・Kグループ・ファシリテータ
学芸員分科会・サポート



松永かおり
東京都教育委員会 指導主事

GW・Lグループ・ファシリテータ
指導主事分科会・司会



谷口幹也
九州女子大学 講師

GW・Mグループ・ファシリテータ



柴崎 裕
多摩市立多摩第三小学校 教諭

GW・Nグループ・ファシリテータ
GT・は組・トーカー

謝辞

* 研修の開催と記録集の刊行にあたり、ご協力を賜りました方々に心より感謝いたします。

■ギャラリートーク協力

筑波大学附属小学校のみなさん、西村德行教諭
千代田区立九段小学校のみなさん、竹内とも子教諭
埼玉大学教育学部附属中学校のみなさん、山田一文教諭
千代田区立九段中等教育学校 落合良美教諭

(以下、敬称略)

■講演

奥村高明 (国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官/文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官)
長田謙一 (首都大学東京システムデザイン学部 教授)

■事例紹介

高松智行 (横浜国立大学附属鎌倉小学校 教諭)
濱脇もどり (西東京市立田無第一中学校 教諭)
竹内利夫 (徳島県立近代美術館 専門学芸員)

■ファンリテータ (P.127 掲載)

■協力

蔵屋美香 (東京国立近代美術館 美術課長)
保坂健二郎 (東京国立近代美術館美術課 研究員)

■グループワークアシスタント

A 内藤裕子 (元・東京国立近代美術館工芸課 インターン)
B 井尾鈺一 (元・東京国立近代美術館工芸課 実習生)
C 栗城敦志 (加須市立加須小学校 教諭)
D 田中彩子 (坂戸市立住吉中学校 教諭)
E 荒井由紀 (元・東京国立近代美術館工芸課 インターン)
F 八木良美 (東京国立近代美術館 ガイドスタッフ)
G 伊藤敬子 (元・東京国立近代美術館企画課 インターン)
H 菅野ももこ (元・東京国立近代美術館工芸課 インターン)
I 夏目敬子 (東京国立近代美術館 ガイドスタッフ)
J 安斉紀子 (東京国立近代美術館 ガイドスタッフ)
K 山本与志絵 (東京国立近代美術館 ガイドスタッフ)

L 大黒洋平 (元・東京国立近代美術館企画課 インターン)
M 西山桐香 (元・東京国立近代美術館企画課 インターン)
N 酒井千波 (元・東京国立近代美術館企画課 インターン)

■国立美術館の教育普及事業等に関する委員会委員

* 本研修は、同委員会において企画されました。
奥村高明、小野篤子、柴崎 裕、長田謙一、西村德行、野口玲一 (文化庁文化部芸術文化課 芸術文化調査官)、松永かおり、松本純子 (文化庁文化財部美術学芸課 美術館・歴史博物館室 美術品登録調査官)、三澤一実、山田一文

■運営スタッフ

独立行政法人国立美術館：
小谷松誠司、矢島 絢、小川原茜、有馬智子、長谷川暢子 (以上、本部事務局普及・研修担当室) 室屋泰三 (情報企画室)
東京国立近代美術館：
一條彰子、荒木 和、山口百合、藤井大和 (以上、企画課) 数原 潔、松本知恵 (以上、フィルムセンター)

国立新美術館：

小山寛俊、伊藤 晃、田島秋桜、福田武史 (以上、庶務課) 西野華子、鳥居 茜、吉澤菜摘、尾形泰三 (以上、学芸課)
東京国立近代美術館企画課 インターン
菅野仁美、黒澤美子、中井彩子
東京国立近代美術館工芸課 インターン
神田 惟、岸田陽子、松井裕美、三石恵莉、福永 愛
国立新美術館学芸課 インターン
熊本晃順、門馬英美

■技術スタッフ

室屋泰三、数原 潔、藤井大和、荒木 和、尾形泰三

■記録集スタッフ

企 画 一條彰子
編 集 小堀幸子
デザイン 藤川素子 (スタジオダイス)
本文構成 宮武佳美
撮 影 柳原茂光、神吉 猛 (写真事務所 COM)、松本知恵

平成 21 年度 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修

発行日：平成 22 年 3 月 29 日

発 行：独立行政法人国立美術館 ©2010

〒 102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1

電話：03-3214-2561 (代) E-mail: kensyu@momat.go.jp ホームページ：http://www.artmuseums.go.jp/

独立行政法人国立美術館 <http://www.artmuseums.go.jp/>

独立行政法人国立美術館とは国立の美術館の運営・管理を行うために2001年4月に発足した独立行政法人です。

Photo by Norihiro Ueno

東京国立近代美術館

<http://www.momat.go.jp/>

Photo by Norihiro Ueno



本館

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
教育普及に関するお問合せ
TEL 03-3214-2605 FAX 03-3214-2576
E-mail school@momat.go.jp



工芸館

〒102-0091
東京都千代田区北の丸公園 1-1
教育普及に関するお問合せ
TEL 03-3211-7781 FAX 03-3211-7783
E-mail cg-edu@momat.go.jp



フィルムセンター

〒104-0031
東京都中央区京橋 3-7-6
教育普及に関するお問合せ
TEL 03-3561-0823
FAX 03-3561-0830



国立西洋美術館 <http://www.nmwa.go.jp/>

〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-7
教育普及に関するお問合せ
TEL 03-3828-5131 (代) FAX 03-3828-5797
E-mail wwwadmin@nmwa.go.jp



京都国立近代美術館 <http://www.momak.go.jp/>

〒606-8344 京都府京都市左京区岡崎円勝寺町
教育普及に関するお問合せ
TEL 075-761-4111 (代) FAX 075-771-5792
E-mail info@ma7.momak.go.jp



国立国際美術館 <http://www.nmao.go.jp/>

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 4-2-55
教育普及に関するお問合せ
TEL 06-6447-4680 (代) FAX 06-6447-4699



国立新美術館 <http://www.nact.jp/>

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2
教育普及に関するお問合せ
TEL 03-6812-9901 FAX 03-3405-2532